

次の文章は心理療法についてクライアント（被治療者）との関係に注目しながら述べたものである。この文章を読んで後の問いに答えよ。

体験をひとつの事実として述べることと、思い出として語ることは違いがある。人は生の事実なまだけの世界を、そのつど場当たりに接触し対応しているだけの存在ではない。

ある子どもがバンという音を聞いたという。バンという音をそれではもう一度同じ強度で鳴らししてみる。それとは違うとその子は首を振る。少し音を変えて繰り返してもぴったりこない。その子が感じているのは違った次元のことのようである。いくらその音と同じであっても、バンという音を聞いたこと（出来事）^Aはもう反復できないのである。言い換えると、体験された対象の秩序と体験の秩序は等値ではない。

物語は体験の秩序に接近しようとするものである。それによって事実になされた意味を付与していく。「事実というものはその人の経験を無視したところには存在しない」。語り手、聞き手が共有する関係場では、語られることは過去のことでありながら、それが常に現在であるということが特徴である。

問 傍線部①について。これはどのようなことを意味するのか。その説明として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

1 体験された対象の秩序が二度と反復できない事実であるのに対して、体験の秩序は他者との関係性を通じて再現できる記憶だということ。

2 体験の秩序が「バンという音を聞いた」事実であるのに対して、体験された対象の秩序は「バンという音」そのものであるということ。

3 体験された対象の秩序が絶えず反復される事実であるのに対して、体験の秩序は再現不能な出来事であるということ。

4 体験された対象の秩序が変化しないのに対して、体験の秩序は反復できない事実であるということ。

5 体験された対象の秩序がその子が感じている音であるのに対して、体験の秩序はその子の記憶を頼りに再生された音であるということ。